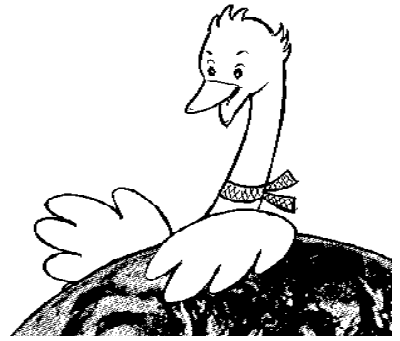


快適地球のつくりかた

いつもロハスで… 16



収穫体験と食育

「この間テレビで収穫体験の自動販売機がある、こののを見て驚いたわ。チャンネル君知ってる？」とネコおばさんがいった。「あ、ぼくも見て興味がわいたので調べてみたよ。…兵庫県丹波市の山あいの集落に、もと牛舎だった建物を改築した“牛舎館”というのがあって、古い農具などを展示してるんだよ。その中に収穫体験の自動販売機、通称“畑スーパー”というのが置いてあるんだ。ネーミングはまるでスーパーのように便利なセルフ方式だからで、農業体験キットを自動販売機でレンタルするというわけ。200円を投入すると、ボックスの中にハサミと軍手と袋が入っていて、近くの無農薬野菜の畑から好きな野菜を自分で採って袋詰めするんだ。そうやって季節に応じた野菜を選んで収穫できるなんていいなあ。ぜひやってみたいよ。」とぼくはいった。「まあ、近くにそんな場所があればいいわねえ！…秋は昔からくだもの狩りの季節ね。ぶどうや梨、りんごや柿や栗ひろいなんて。でもくだもの狩りはレジャーだし収穫とはいえないかもね、遠出で高くつくし。…だけどちよ

うど孫が“芋掘り遠足”でサツマイモを掘って帰ってきたのよ。近くじゃないけれど、芋掘りっ

て子供にはいい体験だわ。」「うん、農作業は人間が生きていく上で必要なものだし、野菜や穀物は自然の恵みをいただいているんだという教育は子供たちには絶対に必要だよ。それどころか、子どもたちだけじゃなくその親たちの方にも、食の大切さを教育する必要があるかもしれない。大量生産、大量消費の高度成長期からバブル経済期に育った30～40代の人たちに、食べ物大切さを意識していないんじゃないか、と思える人が多いから。食育の必要性はきっと子供たちだけじゃないよ。」するとおばさんは考え込みながら、「そうかもしれないわね…息子夫婦の生活を見ていて、共働きで忙しいのはわかるんだけど、朝はきちんと食べないし、食事はインスタントや外食が多いの。食生活はもちろん心配だけど、彼らの食生活が孫たちの人生に良くない影響を与えるんじゃないかと気にかかるの。」といった。ぼくは「おばさんの心配はもっともだね。食はすべての生活の基本となるから、食生活がしっかりしていないと他の生活すべても流されていくのかもしれない。だから平成17年に制定された“食育基本法”の理念が、子どもたちへの食育を通して、その親たちにも伝わるといいなあと思うんだ。」といった。「食育基本法？そんなのがあるのね。」ぼくは「子どもたちが生きる力を身に付けていくために何よりも“食”が重要、という考えから、食育

を知育、徳育、体育の基礎として、農作業など体験学習を通して健康な食生活を送れる人間を育てるのが食育なんだって。子どもの食の問題では、健康面で肥満やアレルギー、食生活では偏食やマナーの乱れ等が挙げられるんだ。あらゆる世代の人々に必要な食育だけど、特に子どもには心身の成長や人格の形成にも影響を及ぼして、その子の生涯に関わってくるよ。大人たちは忙しい生活の中で“食”の大切さを忘れて、不規則な食事や偏った栄養の結果、肥満や生活習慣病の増加といった問題があり、食の安全や食料輸入といった問題も生まれているんだ。ぼく達は先人が育んだ自然のもとで、各地方の豊かな味覚や食文化が失われぬよう心していかなくちゃ。また作物が大地と自然の恵みだと理解するには、実際に土を掘り返してミミズ達に触ったり、種を蒔いて収穫して、調理して食べることでないと分からないんじゃないかな。今の都会での生活は土から離れた生活をして、みんなそれに慣れてきているけれど、やっぱりそれは不自然なことだよ。野菜や穀物、それに家畜たちも、大地の恩恵なしでは健康に生きられるはずないと思うよ。ぼくは食を大切にすることこそが、生活を、自分を、家族を、環境や資源を大切にしていけることにつながるかと信じているんだ。」といった。 つづく

